

関西外国語大学留学生別科のオンラインクラスへの挑戦と報告 ーコロナ禍の 2020 年春学期から 2021 年秋学期にかけてー

鹿浦 佳子

要旨

関西外国語大学（以後「本学」）留学生別科は、2020 年の春学期、通常通りの教室活動でスタートしたが、新型コロナウイルス感染の拡大とともに、学期途中急遽遠隔授業（以後「オンラインクラス」）へと切り替えられた。留学生を受け入れている留学生別科としては始めて以来 2 回目の試練となった。1 回目は 2011 年の東日本大震災後、大阪も放射能の被害が及ぶという風評被害で多くの留学生が帰国した年、今回はそれに次ぐいやそれ以上の試練であった。2020 年秋学期、それまで当然のように行っていた留学生の受け入れが中止に追い込まれたのである。しかし、全ての日本語のコースを開講し、この状況を乗り越えることができた。本稿ではこのオンラインクラス履修移行の実態と各学期終了時のアンケート結果を分析し、約 2 年間のオンラインクラスの状況や対面クラスとの差異、長所や問題点などを留学生別科全体の視点と日本語プログラムの視点の両方から報告する。

【キーワード】 オンラインクラス、対面クラス、関西外国語大学、留学生別科、新型コロナウイルス、

1. 関西外大留学生別科概要

関西外大は、世界 55 か国 8 地域 388 の大学と交換留学の提携を結んでおり毎年約 700 名⁽¹⁾の留学生を受け入れている。日本語総合クラスは必須科目で 1 コマ 90 分週 3 回のクラスがあり、初級レベル 1 から上は上級のレベル 8 までである。Kanji & Readings は選択科目でクラスが週 2 回行われ、レベル 1（初級）からレベル 6（中上級）、そして上級者対象の Advanced Readings がある⁽²⁾。

Business Japanese, Translation, Small Talk Skills for Better Social Relations などの他の

日本語関連科目、アジア関連科目も週 2 回の選択クラスである。1 学期は 15 週間からなり、春学期は 1 月末に始まり 5 月中旬に終了、秋学期は 9 月から 12 月中旬までの期間である。

2. リモートクラスへの移行と実態

2.1 2020 年春学期

2020 年春学期も例年通り対面クラスで始まったが、2 月 27 日文科省通達のニュースで事態が一変した。急遽、翌週から対面式をやめ 2 週間非同期型授業オンラインクラスに切り替え、春休み（3 月中旬の 1 週間）明けから全面同期双方向型授業（synchronous）と 非同期型授業（asynchronous）混在のオンラインクラスに移行した。留学生の半数は帰国したが、帰国後も多くが履修を継続し、日本に残った学生もオンラインクラスを取り、大半の学生が日本語クラスを修了する結果となった。大学側はビデオ会議ソフトウェアの Zoom を取り入れてクラスが行えるように準備し、春休みを利用し教員の研修を行った。教材などの公開、課題の提示、提出、添削、採点、成績付け、試験の提示などは、本学の学習管理運営システム（LMS=Learning Management System）Blackboard を活用することにした。その後も自国の大学や政府の意向に従い、帰国する学生も増えていった。日本に残る学生も帰国した学生もクラスを取れるようにオンラインで行うことを決断した。ホームステイをしていた学生も、問題が起こった場合にスタッフが対処できるように、既に多くの学生が住んでいるキャンパス内の寮「YUI」⁽³⁾に移動させた。帰国した約半数の学生の国とは時差があるため、対面で使用されてきた時間割の時間に Zoom の同期型のライブクラスを行っても全員が出席することは不可能となり、非同期型のオンデマンドのクラスが中心となった。教師にとっても経験のないオンラインでの授業であるし、継続すると言って途中で withdraw（以後「履修辞退」）をして帰国する学生、帰国後も継続する学生、履修辞退するといった帰国したが気が変わってまた履修を続けることにした学生など様々な状況に対処する必要に迫られた。成績に関しては、成績が付けやすい pass or failure（合格か不合格）にしようという教員の意見があったが、merit scholarship の学生には成績を出さないで奨学金がもらえなくなるという事情などを考慮し、成績は従来通り ABC で評価し単位を付与することにした。日本語プログラムに限り、対面に比べテストや試験の回数が少なくなったため、成績は「+」、「-」なしで行った。

一番大きい問題は成績を出すためにオンラインにおける適切で客観的な評価を教員が行わなければならなかったことである。留学生別科日本語クラスでのオンラインクラスの実践報告については（鹿浦他 2020）（土田 2020）に詳しい。

2.2 2020 年秋学期

2020 年秋学期、本学に留学を希望していた学生数は相当数いたが、パンデミックの状況や留学生を本学キャンパスに受け入れることは難しいと判断し、留学生別科はオンラインクラスのみの実施を決定した。対面式のクラスを行っている海外の提携大学もあり、原籍大学のクラスを履修しながら関西外大のどのオンラインクラスでも最大 2 コース取れるというパートタイム制度を取り入れた。初めての試みであるため授業料を無料とし、登録料のみを徴収した。ただし春学期から継続してキャンパスに滞在しているフルタイムの学生は従来通り日本語総合の 1 コースは必須（5 単位）でそれ以外の 3 単位のコース 3 つが選択でき、14 単位（4 コース）最高 20 単位（6 コース）が取れるようにした。

時差を考慮して、北米や中南米大学などは 1 限（日本時間 9:00~10:30）か 2 限（10:45~12:15）、ヨーロッパ、アジアの大学は 4 限（15:00~16:30）か 5 限（16:40~18:10）という時間割を設定した。単位も付与することにした。日本の対面の時間割に合わせると国により現地時間の夜中にクラスを取ることになるので、これを防ぐために開講するクラスの時間割が制限されることになった。日本語関連クラス 44 コース、アジア関連科目のクラス 25 コースを限られたコマの中でバッティングしないように履修できるようにするため、アジア研究関連科目は同期型授業と非同期型授業を週 2 回のクラスにおいて 1 クラスずつ設置した。学生との会話が必須の言語教育である日本語クラスは原則同期型授業にし、漢字クラスにおける漢字の導入や日本語総合クラスにおける文法説明などをオンデマンドで行うという非同期型授業も教員の自由裁量で併用可能とした。

対面クラスでは留学生別科で取っているクラスや寮の「YUI」、クラブ、サークルなどでキャンパス内での日本人学生との交流が容易に出来ていた。それに対しオンラインでは日本人学生との交流が出来ないため、従来留学生別科が対面で実施していた多文化交流プログラム（スピーキングパートナープログラムなど）の代替として、学生主体で発案・企画する新規プログラム「Intercultural Engagement Program」（以

後「IEP」)をオンラインで実施し、関西外大の学生と海外の学生が交流できる機会を提供することにした。関西外大のホームページにイベントの内容、報告を記してあるのでご参照頂きたい。⁽⁴⁾

2.3 2021 年春学期

2021 年春学期も、留学を希望していた学生が多かったため、学生の希望を叶えるべく一定数の留学生をキャンパスに受け入れる準備を行っていたが、関西外大と多くの提携校を持つ米国が日本に留学を希望する学生に VISA を発行することを中止したため、やむを得ず学期直前に全てオンラインクラスで行う方向に切り替えた。

2.4 2021 年秋学期

東京オリンピックの開催も危ぶまれていた頃、2021 年秋学期の受け入れの判断をせまられたが、日本政府が海外からの受け入れを認めず、結局再度オンラインクラスを行うことに決定した。海外の大学では対面クラスに戻っているところも多く、関西外大ではその状況に鑑み、学生がパートタイムの立場で 2 コースのみ履修できることとした。2022 年春学期もオミクロン株の水際対策として政府が初めて来日する外国人の入国を禁じたため、4 学期目のオンラインクラスとなった。

3. オンラインクラス移行による学生数・国数・大学数の変化

対面クラスとオンラインクラスを比較するために 2019 年春学期からのデータを引用する。2019 年春学期から 2020 年春学期の途中までは対面クラスであり、2020 年秋学期の学期始めよりオンラインクラスとなった。2020 年秋学期からも対面クラスを取った学生がいたが、彼らは継続生かコロナ禍以前に来日し既に日本に滞在していた学生である。フルタイムの学生になるためには最低 14 単位（4 コース）を取ることが必要となる。2020 年秋学期から 2021 年秋学期までは studio コースである陶芸クラスを対面クラスとして取ることが出来た。2022 年春学期は対面クラスとして陶芸クラスにマンガクラスも加わる。関西外大の卒業生にも広報した結果、2021 年秋学期から卒業生もオンラインクラスが履修できるようになった。

表1から4に表されるように対面クラスでは学生が来ている大学数は提携校数の約 5割と多く、オンラインクラスになると国数はさほど差異はないが大学数は減少し

ている。対面の場合、学生は原則フルタイムの立場であるため最低4コース（14単位）最高6コース（最高20単位）履修していたのに対し、オンラインでは原則パートタイムのため一人最高2コースしか履修出来なくなり、学生数を多く受け入れる必要があった。日本語総合も選択コースとした。表5が示すようにオンラインの学生の約半数は、過去の学期に願書を送っており条件をクリアした留学予定の学生である。

表1 各学期の学生数、キャンパスにいる学生数、卒業生の数、国数、大学数

Semester（学期）	学生数	内対面数	内卒業生	国数	大学数
2019SP（春学期）	292人	292人	0	32	142
2019FA（秋学期）	324人	324人	0	29	154
2020SP	320人	320人	0	26	155
2020FA	353人	9人	0	22	84
2021SP	347人	2人	0	24	86
2021FA	372人	3人	10人	27	116
2022SP	307人	11人	12人	27	117

表2 2020年秋学期原籍大学の国別人数

	所在国・地域	大学数	学生数		所在国・地域	大学数	学生数
1	Argentina	1	2	12	Italy	1	2
2	Australia	2	4	13	Latvia	1	2
3	Bangladesh	1	4	14	Malaysia	1	13
4	Canada	1	32	15	Mexico	3	82
5	China	5	1	16	Netherlands	2	31
6	Finland	1	2	17	Portugal	1	5
7	France	2	3	18	Sweden	1	1
8	Germany	1	3	19	Switzerland	1	3
9	Iceland	1	2	20	Turkey	1	4
10	India	1	4	21	U.K.	3	40
11	Israel	1	4	22	U.S.A	51	109
					TOTAL	84	353

日本語関連科目3科目（44コース） 日本アジア関連科目16科目（25コース）

22か国・地域、84大学から353名参加

表3 2021年春学期原籍大学の国別人数

	所在国・地域	大学数	学生数		所在国・地域	大学数	学生数
1	Argentina	1	1	13	Mexico	2	40
2	Australia	2	6	14	Morocco	1	2
3	Canada	6	76	15	Netherlands	2	24
4	Czech Republic	1	1	16	Norway	1	19
5	Finland	3	5	17	Portugal	1	5
6	France	1	2	18	Russia	1	3
7	Germany	1	3	19	Spain	1	1
8	Hong Kong	1	4	20	Sweden	1	1
9	India	2	6	21	Switzerland	1	1
10	Israel	1	7	22	Turkey	1	8
11	Latvia	1	4	23	U.K.	2	11
12	Malaysia	1	7	24	U.S.A.	51	110
					TOTAL	86	347

日本語関連科目4科目（46コース） 日本アジア関連科目35科目（39コース）

24か国・地域、86大学から347名参加

表4 2021年秋学期原籍大学の国別人数

	所在国・地域	大学数	学生数		所在国・地域	大学数	学生数
1	Australia	5	5	15	Mexico	1	23
2	Austria	2	2	16	Netherlands	5	16
3	Canada	11	69	17	Norway	2	17
4	Colombia	1	1	18	Portugal	1	6
5	Ecuador	2	16	19	Russia	1	5
6	Finland	2	3	20	Singapore	1	3
7	Germany	2	4	21	Spain	1	1
8	Hong Kong	1	1	22	Sweden	1	3
9	Iceland	1	2	23	Switzerland	1	1
10	India	1	4	24	Taiwan	1	1
11	Israel	1	1	25	Turkey	1	3
12	Italy	1	1	26	U.K.	4	44
13	Latvia	1	2	27	U.S.A.	64	128
14	Malaysia	1	10		TOTAL	116	372

日本語コース4科目（45コース） 日本語アジア関連科目32科目（45コース）

27か国・地域、116大学から372名の参加

表5 当該学期に留学予定だったかどうか

Semester (学期)	Yes		NO		回答なし	Total
2020FA	170人	45%	191人	51%	17人	378人
2021SP	137人	49%	113人	41%	29人	279人
2021FA	174人	66%	77人	30%	2人	253人
2022SP	126人	69%	65人	34%	1人	192人

表6 原籍大学で単位が認定されるかどうか

Semester	Yes		「No」		「わからない」		回答なし	Total
2020FA	171人	45%	87人	23%	103人	27%	17人	378人
2021SP	201人	72%	9人	3%	42人	15%	27人	279人
2021FA	163人	64%	54人	21%	34人	13%	2人	253人
2022SP	106人	55%	29人	15%	56人	29%	1人	192人

学期始めに行ったアンケートによると、表6で示されるように、毎学期学生の約60%が原籍大学から単位認定され、約15%が単位が認定されなくても履修しており、約20%の学生が認定されるかどうか分からなくても履修すると答えている。単位が認定されないと答えた学生と認定されるかどうかわからないと答えた学生を加えると毎学期37%の学生は単位がもらえなくても関西外大のオンラインクラスを取っていることになる。このことは後述する満足度アンケートの項目で関西外大のオンラインクラスにおける良い点（図1）で単位が得られるより他の理由を答えた学生の割合が多いこととも一致する。

4. 留学生別科による学期中間アンケート調査

4.1 調査時期・方法

オンラインクラスになり、留学生別科は学生の意見やリクエストを尋ねるべく学期中間アンケートを行いデータをまとめた（表 7）。質問内容などの学期もほぼ同じであり、結果の数値もほぼ同じであるため抜粋したデータの学期は恣意的である。

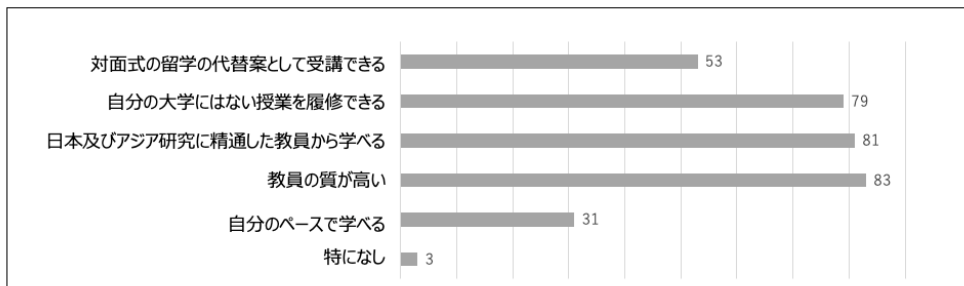
表7 満足度アンケートの学期、実施期間、回答率

学期	実施期間	回答数	回答率	学期当初の学生数	アンケート時の学生数	備考
2020 SP	5月18~30日	90人	不明	320人	不明	学期途中でオンラインに移行
2020 FA	10月12~18日	116人	36.7%	353人	316人	学期開始時からオンライン
2021 SP	3月8~14日	141人	44%	347人	320人	学期開始時からオンライン
2021 FA	10月22~31日	137人	41.9%	372人	327人	学期開始時からオンライン

4.2 アジア関連科目全体のアンケート調査とその結果⁽⁵⁾⁽⁶⁾

4.2.1 オンラインクラスの良い点、悪い点

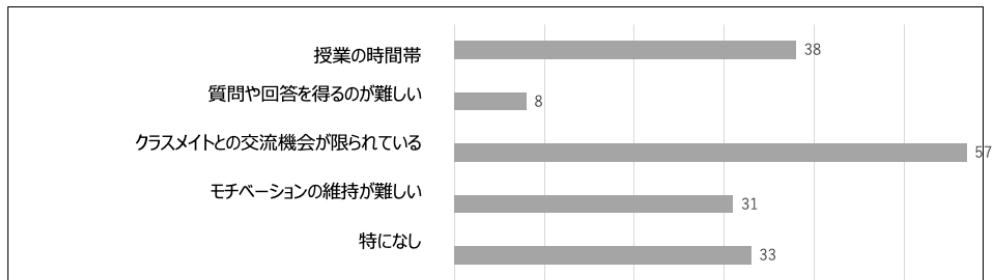
図1～3で示されたように関西外大のオンラインクラスは教員の質が高く、自国にないクラスで専門の教員から学べるという評価が多かった。対面式の留学を計画していたが、それが中止になったための代替策として履修しているという学生も多い。悪い点は、クラスメイトとの交流が限られているという意見が一番多く、他には時差があるためクラスの時間が早すぎる、遅すぎる、日曜日の夜にもクラスがあるという時間割の問題が続き、モチベーションを維持するのが難しいという意見が続く。日本語に関しては自国に日本語プログラムがない、日本語教員の質が高いという答えに続いて自国にいながら日本語の単位が得られるという意見もあった。



<学生からのコメント抜粋>

1. 対面式の留学プログラムは中止になったが、オンライン上で日本文化を経験できるのは非常に嬉しい。
2. このプログラムがなかったら、日本人の先生から日本語を学ぶことは不可能だったと思う。この機会には本当に感謝している。
3. 他にはないくらい良い授業だと思う。
4. まだ関西外大で留学する望みを持っているので、これが留学の代替案とは言わないが、在籍大学では学べない科目を履修するチャンスをもたらえてありがたい。

図1 オンラインクラスの良い点



- ＜学生からのコメント抜粋＞
1. 夜遅くに始まるから、少し疲れている。時差があるから、課題を時間内こなすのも一苦労。
 2. 一般的にオンラインコースは交流に向いていない。教員がもっとビデオやディスカッションの機能に慣れると更によくなると思う。
 3. ほとんどの問題点はオンラインであることが原因。対面授業がいいが、オンラインコースを提供してくれたこと自体は大変ありがたい。
 4. クラスメイトとの交流が本当に少ない。
 5. 朝 8 時に始まるクラスを経験したことがないから、なかなか大変。
 6. 先生が話すばかりで、学生に発言の機会がほとんど与えられていない。授業後に話せるような時間も設けられていない。

図 2 オンラインクラスの悪い点

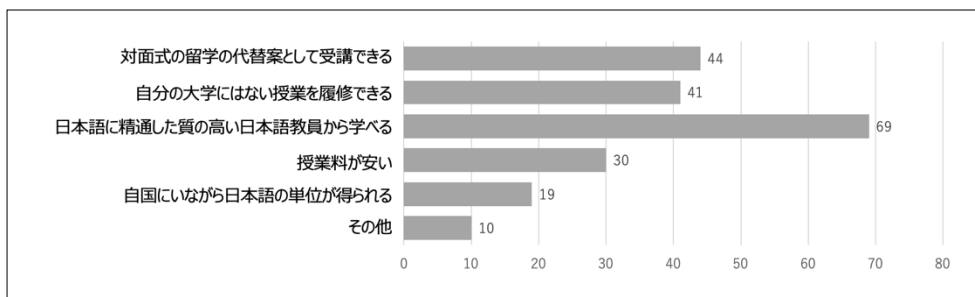


図 3 日本語コースの良い点（複数回答）

4.2.2 オンラインクラスで想定される問題

オンラインクラスで想定される問題点（教員とのやりとり、クラスメイト間でのやりとり、課題の出され方、課題・試験の採点と返却、教員の Zoom の操作、質問や要求への教員の対応）についても学生に評価を尋ねた。

対面式では学期始めの 2 週間は履修辞退が認められたが、オンラインクラスでは履修辞退の期間が学期終了まで延長された。学生はパートタイムであるため自国の大学や仕事が忙しくなったり、単位がもらえないことがわかったり、時差の問題や思った以上にクラスが大変だと分かったという理由での履修辞退が多く、各学期全体数の約 1 割を占めた。その結果対面クラスより小さいクラスサイズが更に小さくなり、クラスの運営に大きく影響を及ぼすこともあったと何人かの教員から報告があ

った。

以上のような状況に対応するため、教員は Zoom やメールを使って学生との綿密なやり取りを行っており、学生の質問や要求に何とか応えられているようだが、クラスメイト間のやり取りは十分ではなく、課題の出され方も工夫が必要であり、課題及び試験の採点と返却に関してはまだ解決すべき問題があるようだ。

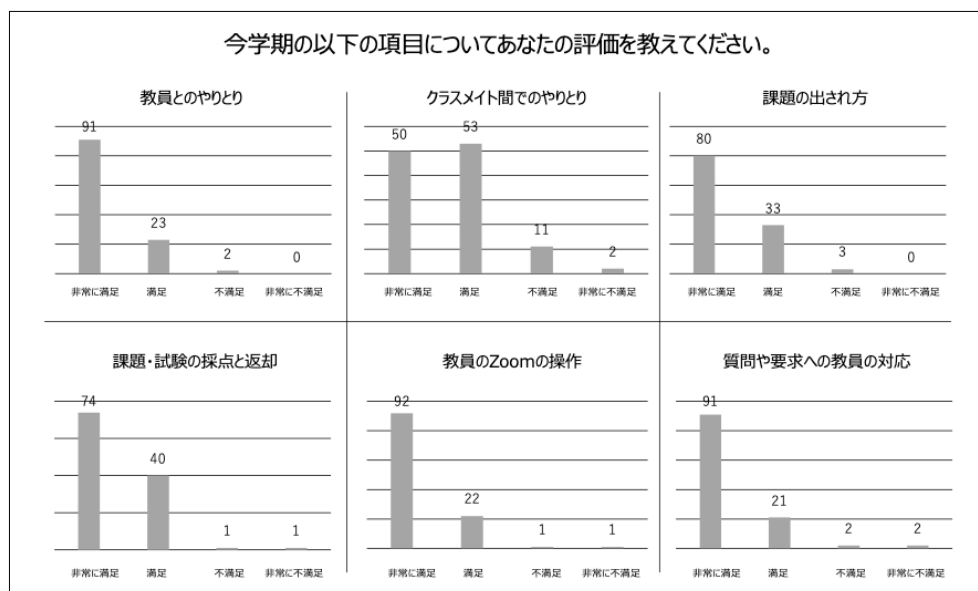


図 4 オンラインでの各項目の評価

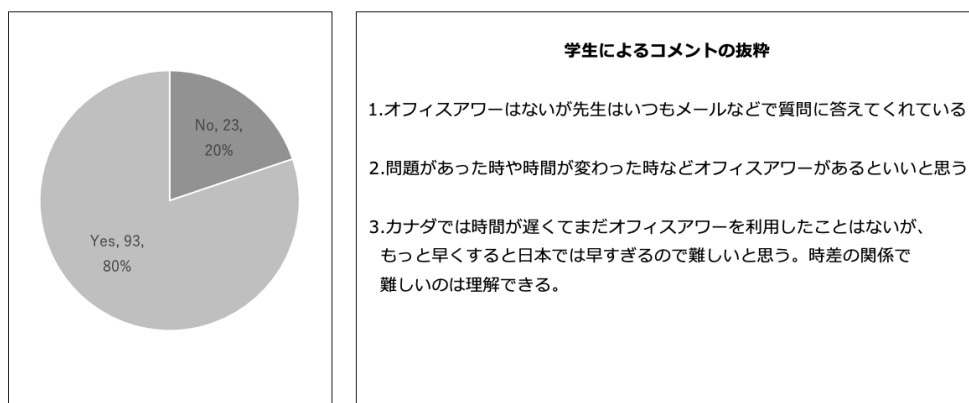


図 5 オフィスアワーがあるかどうか

オフィスアワーの設定は対面の時は必須であったが、時差のある国にいる学習者とのオンラインクラスではクラス以外の時間を設定することも難しい。教師はクラ

ス以外の学習者との連絡や指導を行い、一日中メールで寄せられる学生からの質問に対する返信もしなければならぬため一日中オフィスアワーがあるとも言える。

次に関西外大のオンラインクラスを他の学生に勧めたいかという質問をした(図6)。結果、図6のように他の学生に勧めたい、実際に勧めたと回答した学生が多い。

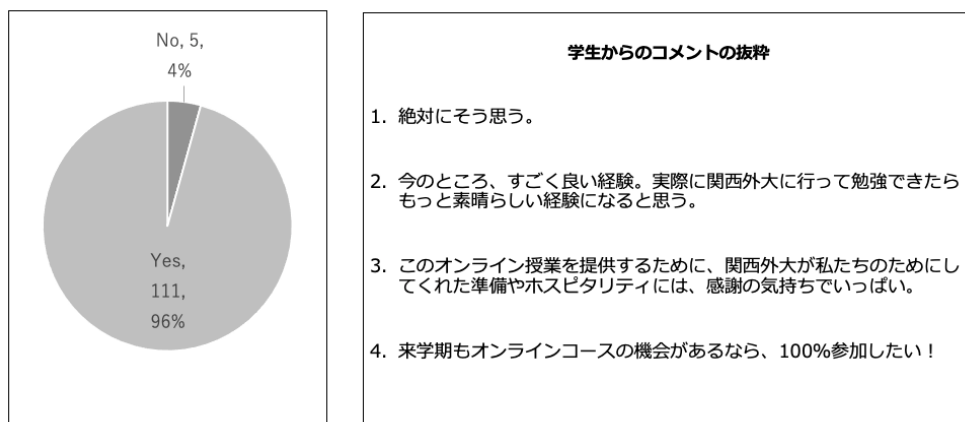


図6 関西外大のオンラインクラスを他の人に勧めたいか

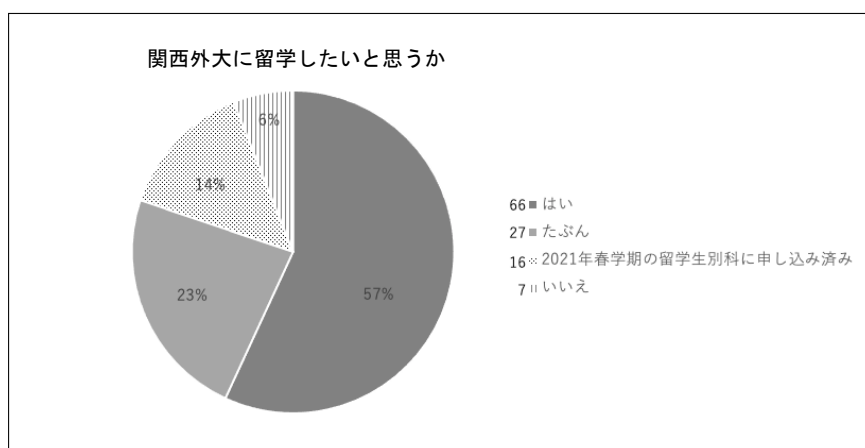


図7 将来関西外大に留学したいか

更にこのオンラインクラスを取ってみて将来関西外大に留学したいかどうかとも尋ねた(図7)が、留学を希望した学生がオンラインクラスを取っているため、留学を強く希望すると答え、それ以外の学生も次回留学したいと考えていると答えている。

アジア研究関連コースの同期型と非同期型クラスの割合は、非同期型が多く、約7割を占めている。(図8) 学生の要望(図9) とほぼ同じ割合である。

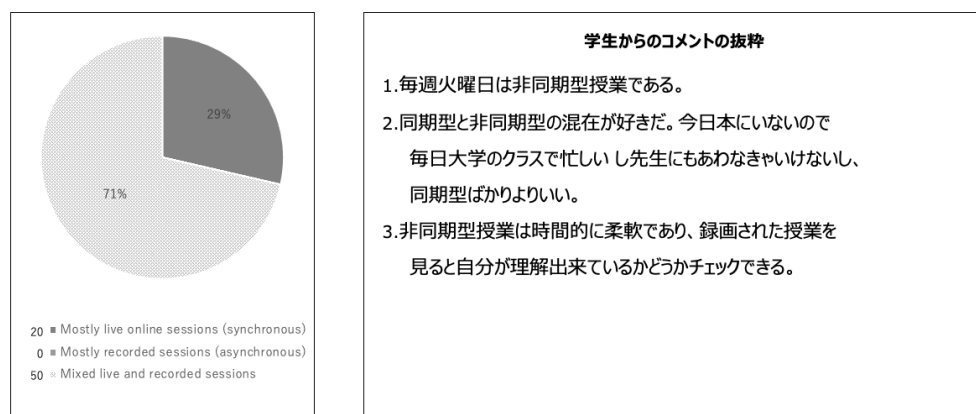


図8 アジア関連科目関連は同期型、非同期型のどちらか

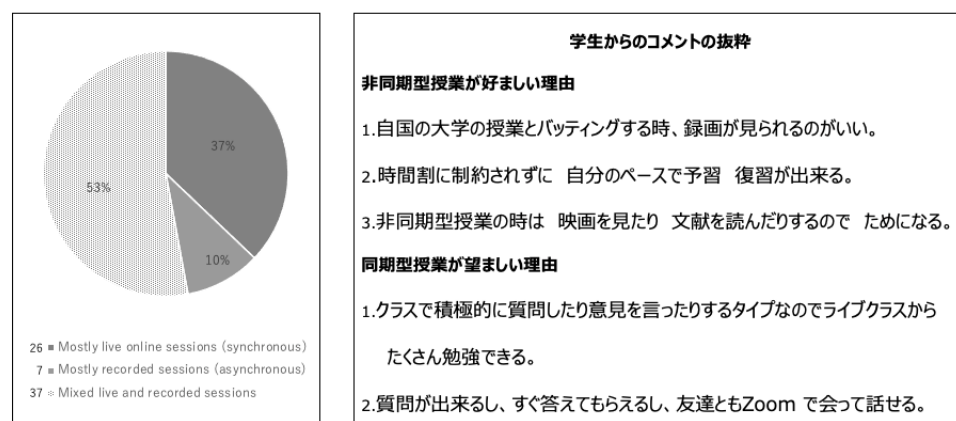


図9 アジア関連科目関連オンラインクラスは同期型、非同期型のどちらがいいか

オンラインクラスでは、日本人学生との交流が少なくなるという問題解決のためのクラス外の IEP に関しても意見を聞いた。毎学期始めのオリエンテーションでイベントの説明会を行ったためかこのプログラムの認知度は高かった。参加した学生の割合は半数弱であったが、この満足度アンケートは学期途中で行ったものであるため、後半の積極的な参加の数値が表れていないが、実際参加した学生からは評価が高かった。(図10)

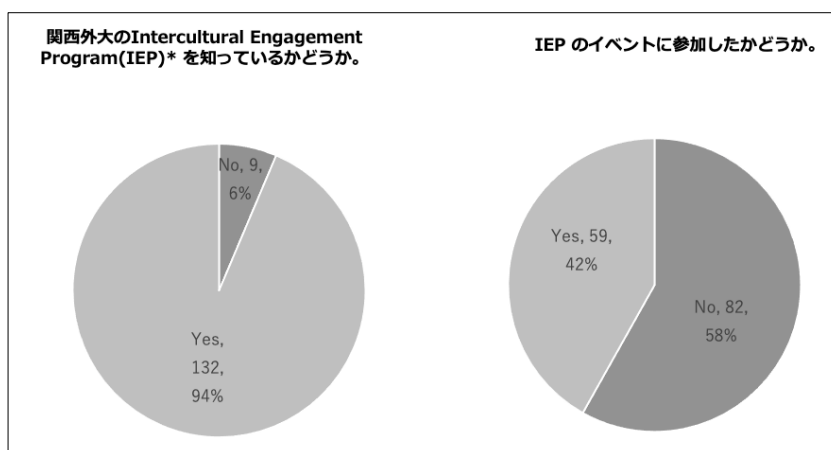


図 10 関西外大の IEP の認知度とその参加割合

4.3 日本語プログラムの評価と問題点⁽⁷⁾

4.3.1 日本語の満足度アンケートの結果

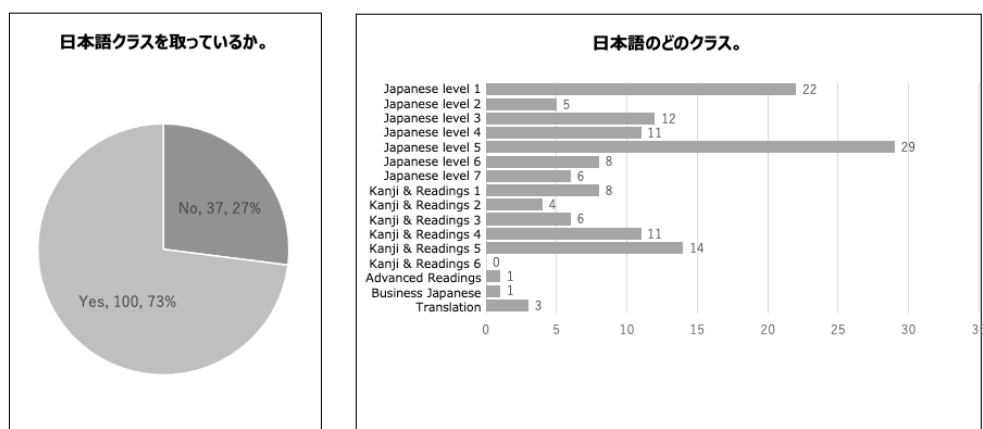


図 11 日本語クラスを取っているかどうか、その場合どのクラスか

キャンパスに留学生を受け入れる場合、全ての学生の立場はフルタイムとなる。その場合日本語総合（Japanese）は必須であるが、オンラインクラスではパートタイムであるため日本語総合も他のコース同様任意である。オンラインクラスではどの学期も日本語総合及び日本語関連コースを取っている学生と、日本語関連コース以外のアジア関連科目関連コースを取っている学生の割合は約 6 対 4 であった。そのうちアンケートに答えた学生それぞれの割合は 2021 年秋学期では約 7 対 3 であった（図 11）。2021 年秋学期のアンケートの回答者 136 人の回答のうち 29 人が日本語・

日本語学の専門であり、12 人がアジア研究を専門に勉強していると答えており、日本語やアジア研究の専門以外の学生の履修が多くなっている。

日本語に特化し、授業形態を見てみると、日本語クラスの同期型クラス・非同期型クラスの割合は、図 12 のような結果が見られた。

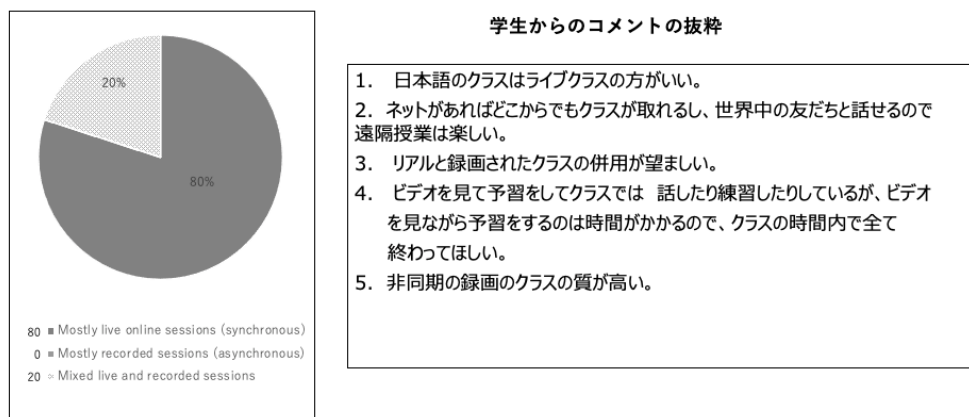


図 12 日本語クラスは同期型、非同期型のどちらか

約 80%が同期型授業で、同期型と非同期型授業の組み合わせのクラスが残りをしてしている。続いて日本語クラスではどちらの形態を望むかと尋ねると、約 8 割が同期型、2 割が同期型と非同期型の混在がいいと答えている（図 13）。同期型を好む理由として、質問がある場合すぐ教師に聞けるし、教師やクラスメートと練習や会話ができるので早く上達できると回答している。非同期型を好む理由としては好きな時間に自分のペースで勉強できるので柔軟なスケジュールになるというものが多かった。オンデマンドのみを希望する学生も若干いたが、現状の同期・非同期型の割合と好みの割合が合致していることから現状に満足しているようだ。

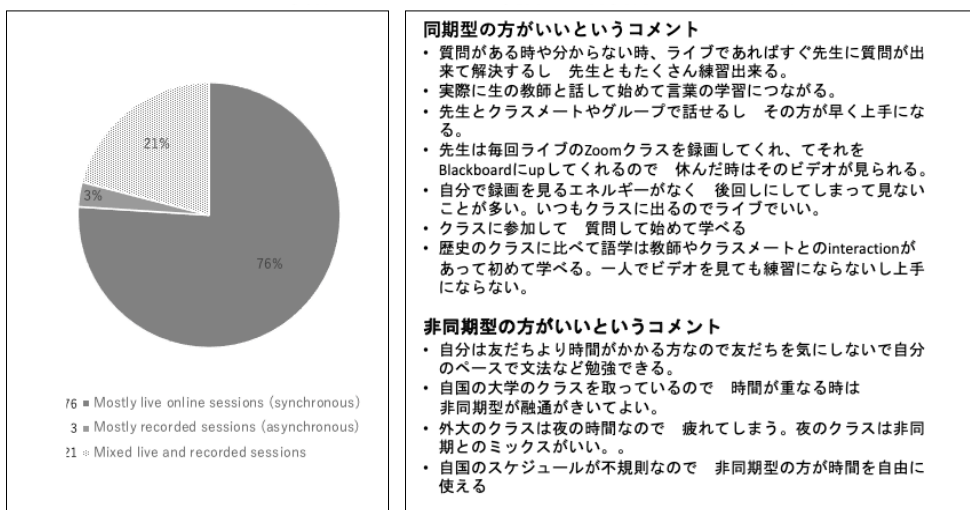


図 13 日本語クラスでは同期型、非同期型のどちらの方が望ましいと思うか

同期型を好む学生の割合が 8 割近くで、同期と非同期型の混在を好む割合は 2 割であるという日本語プログラムの調査（図 13）と比べて、講義型形態のアジア関連科目では同期型と同期非同期混在型を好む学生の割合が 3 対 7 と（図 9）と、学生の意識は逆転している。

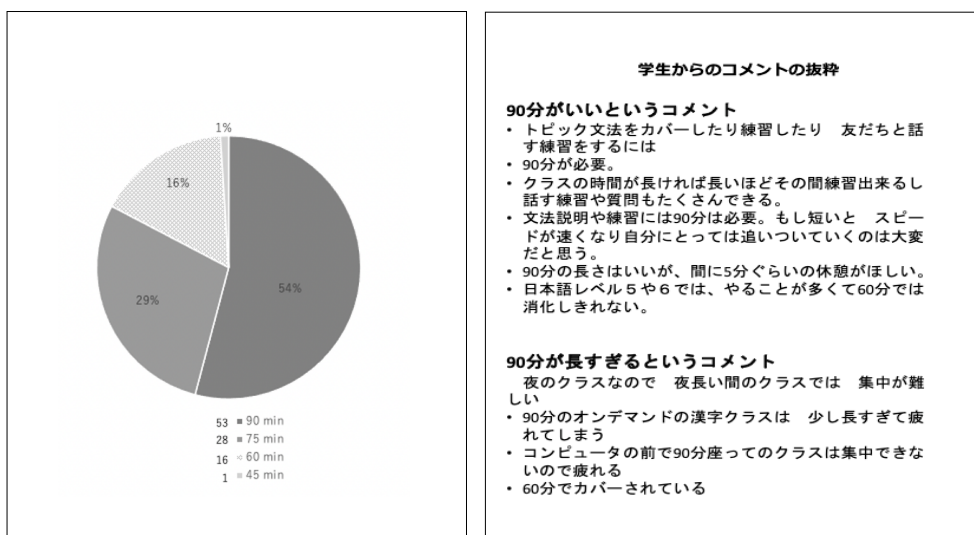


図 14 日本語のオンラインクラスは何分が望ましいか

オンラインクラスの時間は対面クラス同様 90 分であるが、日本語のオンラインク

ラスの時間についての意見を聞いたところ半数以上が 90 分で満足している。中にはもう少し短い時間が好ましい、また自国のクラス時間の 60 分を望む学生もいた。関西外大のカリキュラム上、1 コマの長さを変更するのは難しいが、90 分のオンラインクラスでは間に 5 分程度の短い休憩を入れると更に集中できる学生が多くなると思われる。(図 14)

4.3.2 教務部による日本語クラス満足度アンケートの結果と分析

関西外大では、毎学期教務部により学期末に留学生への満足度アンケートを行っており、以下は対面授業である 2016 年秋学期から 2019 年秋学期までとオンラインクラスが始まった 2020 年春学期から 2021 年春学期までの日本語コース全体の評価を比較したものである。評価は Excellent, Good, Average, Not good, Poor の 5 段階である。Excellent と Good が肯定の評価と考え両方を加えた数を比べた。その評価を見ると 2020 年春学期の評価は前年よりも高くなっているが、学期途中でオンラインに切り替えざるを得ず、混乱の中での教師の試行錯誤の努力が評価されたのかもしれない。2020 年秋学期、2021 年春学期の回答率は約半数と非常に低いが、肯定の評価の数値はコロナ禍以前のそれと大差ないので、課題はあるものの一定の評価が得られていると考えられる。

表 7 学期末の日本語コースの評価

	履修登録者数中 回答率(%)	Excellent	Good	Excellent + Good
2016 FA	351 人中 85%	49 %	41%	90%
2017 SP	353 人中 85%	47%	43%	90%
2017 FA	305 人中 84.3%	57%	34.6%	92%
2018 SP	306 人中 85%	54%	36%	90%
2018 FA	332 人中 77%	52%	38%	90%
2019 SP	291 人中 85%	58%	30%	88%
2019 FA	322 人中 87%	53%	33%	86%
2020 SP	303 人中 78%	53%	36%	89%
2020 FA	309 人中 49%	68%	17%	85%
2021 SP	311 人中 53%	68%	11%	79%

4.3.3 日本語プログラムの問題と改善策

オンラインクラスでは試験の際、カンニングなどの不正な行為がチェック出来ず、学生への平等かつ客観的な評価をするのが難しい。その対処として試験の時はカメ

ラを on にさせたり、人に聞いたり調べたり出来ないよう時間制限を設けるなど工夫している。不正が出来ないように携帯カメラで学生の手元や周りを写させる教員もいた。しかし、そのような強制が出来ない状況もあり、個別対応の試験をすると時間がかかり、対面式ほど試験の回数が取れず、平等かつ正確な評価という目標にも限界がある。全体的に従来の対面式のクラスより成績が良くなっているということも否めない。

出席に関しては、パートタイムであるため自国の大学のクラスを優先しなければならない、アルバイトや仕事がある、国や天候や住居によりネット環境が悪い、コロナ禍での事情でクラスに出席できないなど、様々な理由を考慮した結果、欠席した分を成績点から減点することは行わないことにした。言語のクラスの場合、特に初級中級のクラスでは出席することで知識の理解度、練習の効果が上がり、上達することに繋がり、出席しないと成績にも影響を及ぼすため、欠席を減点方式にしなくても出席する学生が多い。しかし、上級の場合、一定以上の日本語の知識がある学生は、欠席してもある程度の成績が取れてしまい、学生の上達度や努力を忠実に成績に反映させるのは難しい。

オンラインクラスにおける同期型クラスと非同期型クラスの問題は、日本語クラスの調査では同期型クラスの方が多くの学生からの評価が高かった。その理由は、分からない時や質問がある時、すぐ教師からフィードバックを得られ、教師や友達ともたくさん練習ができるなどである。したがって、個々の学生の意見も取り入れながら、現状維持で問題ないようである。筆者個人は、毎同期型の Zoom クラスを行い、そのクラスを録画して Blackboard にアップロードするようにしている。休んだ学生や再度 PPT を見て練習したい学生は、好きな時間に録画された非同期型クラスも体験できる。教員も余裕を持ってクラスを運営できるのではないかと考える。これに対して講義型のクラスでは同期型より同期型と非同期型の混在の混在型を希望する学生の割合が多かった。このことから語学のクラスと講義のクラスのオンラインクラスの同期型と非同期型形態の学生が好む割合は正反対にあるということがわかった。

クラスの長さについては、コンピュータに向かって授業を受けるというオンラインクラスの性質上、多くの学生が連続して集中できる時間はせいぜい 60 分で、90 分クラスには途中 5 分程度の短い休憩を入れるとクラスの効率が上がるのではないかと

と思われる。

対面クラスで作られているオフィスアワーはオンラインクラスでは、時差の問題があり、かつ設定しなくても教員は必然的に連絡、相談、質問への回答を行っており形式的なオフィスアワーと同等以上のタスクを負っているため、設定しなくてもいいと考える。

2015年に始まったサマープログラムは、パンデミックの中 2020年に初めて中止したが、2021年のサマープログラムはオンラインで行った。授業料をどうするかという課題はあったが、授業料を課すことで行ったが、学生の応募も多く高い評価が得られた。コロナが収束してもオンラインクラスの需要は多いと考えられ、2022年のサマープログラムはオンラインで開講の予定であるし、その後も対面またはオンラインの併用のプログラムを計画している。

5. まとめ

コロナ禍以前、1学期にキャンパスに受け入れる学生の国数は平均 29 カ国、大学数 150 校、学生数は平均 312 人であった。オンラインでクラスを開講しても提携校自体にクラスがあるのであれば、果たして外大のオンラインクラスを履修する学生がいるのだろうかという不安があったが、開講してみると不安は払拭され、クラスサイズは小さくなったが予定のコースを開講することが出来た。平均国数は 25 カ国、大学数 100 校、学生数は対面の時を凌ぐ 345 人である。海外の学生からは普段履修出来ないクラスをオンラインで取ることができ感謝しているといった意見が多く、留学できない代わりに単位付与のクラスが履修できてよかったという意見も見られた。コロナ禍で国際交流事業が難しい局面を迎え、関西外大においても多難であったが、オンラインのクラスを開講して良かったという思いである。

これもひとえに提携校の協力、関西外大国際交流課のスタッフの努力、オンラインクラスを実行した教員の働き、オンラインを受講してくれた学生皆の熱意、学生と IEP プログラムを通じて交流をしてくれた関西外大の学生の協力などによるもので、すべての関係者の方々に敬意を示したい。長年国際交流を続け築き上げてきた提携校とのゆるぎない信頼関係、強い協力関係のおかげで、オンラインクラスを開講し、国際交流事業を中断することなく継続出来たことを関係者全員に感謝する次第である。2022 年春学期もオンラインクラスの予定である。日本語プログラムのオンライ

ンクラスの長所短所、問題点は上に述べたが、短所や問題点を解決し、改善を目指す努力をしていきたい。日本語プログラムとしてはコロナが収束し、対面授業が出来るようになって、オンラインの利点や蓄積したオンラインクラスの運営経験を活かしオンラインも幾つか残して留学生の選択肢を増やし、更に交流を活性化していきたいと考える。

注

- (1) コロナ禍以前の数字であり、オンラインクラスを開講した 2020 年度以降はコロナ禍の影響により減少している。参考までに 2020 年度は合計 529 名が修了している。
- (2) 対面の場合レベル 1 から 7 までである。
- (3) 2018 年 4 月に、関西外大の学生と海外からの留学生が学食住を共にする共同生活を通じて、異文化理解を深めることを目的として設立された生活空間である。
- (4) <https://www.kansaigaidai.ac.jp/international/gtd/iep/>
- (5) アンケート結果は英語であるため、回答は筆者が日本語訳を行っている。
- (6) 4.2.で使われているデータは 2020 年秋学期のアンケートの結果使用
- (7) 4.3 で使われているデータは 2021 年秋学期のアンケートの結果使用

参考文献

- 鹿浦佳子・宮内俊慈・倉沢郁子（2020）「留学生別科におけるコース途中でのリモートクラスへの移行経緯および、初級・中級日本語クラスにおける授業実践の報告」第Ⅱ部 第 10 回関西外大「授業実践研究フォーラム」プロシーディング『高等教育研究論集』第 10 号 87-91.
- 土田恵未（2020）「対面授業から同期・非同期混合型の遠隔授業へーCOVID-19 の影響を受けてー」第Ⅰ部 2.授業実践研究 『高等教育研究論集』第 10 号 40-49.

[\(shikaura@kansaigaidai.ac.jp\)](mailto:shikaura@kansaigaidai.ac.jp)